

玄関前の子どもの像

＝卒園してもずっと友達＝



「そうですね、設置するには男手が5、6人必要でしょうか。何せ、子どもの像の重さは、250 kgはありますから」受話器の向こうから聞こえるのは、ブロンズ像を制作した平田寿一先生の声でした。

幼稚園の近くに工房を構える平田先生は、教師時代に美術を教えていました。退職してからは、仲間と絵や彫塑など芸術活動を楽しんでいます。

その平田先生が、彫像を卒園記念として寄贈してくれるというのです。

「男の子と女の子の2体の像を作りましょう。もちろんシンボルマークのまっかなポッケが付いているものです。どこに設置するか、決めておいてください」2年前にそんなお話があったことを思い出しました。

「二人の娘が善隣幼稚園の卒園生で、善隣さんにはお世話になっていますから……」と、奉仕の姿勢を崩そうとしません。

彫像設置は日曜日の午前中、8人で約1時間半かかりました。毎日この像を見てもらえるようにと、置いたのは玄関の右側。仕上げは、コーナーの縁にフェルトを張り、子どもたちの安全確保に心がけました。

残りは、台座全面中央と台座側面に張り付けるプレートづくりです、

プレートに刻むタイトルは「ずっとともだち」。卒園して、それぞれの学校へ進学しても、お互いの心の絆を大切にしてほしいとの願いを込めました。

園長 今泉文彦